

研究機関：広島大学

研究課題名	脾温存尾側脾切除術後長期経過症例における胃静脈瘤発生リスク因子の検討 -国内多施設共同研究-
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科外科学 教授 高橋信也
研究期間	2022年4月19日(倫理委員会承認後)～2023年12月31日
対象者	2011年1月から2018年12月の間に、広島大学病院消化器外科で脾温存尾側脾切除術を受けた患者さん。
意義・目的	脾臓を摘出すると重症感染症や、後々に悪性疾患を引き起こすリスクが高くなると言われているため、脾体尾部に発生した良性疾患や低悪性度腫瘍に対しては脾温存尾側脾切除術が行われることが多くなりました。脾温存尾側脾切除術では、術後に胃静脈瘤を生じることがありますが、脾温存尾側脾切除術症例を長期にフォローした大規模な症例集積報告はなく、長期的な胃静脈瘤発生のリスク因子に関しては明らかになっていません。今回、脾温存尾側脾切除術長期経過症例における胃静脈瘤発生と臨床病理学的因子との関連性について検討するため、この研究を計画しました。これを明らかにすることで、脾温存尾側脾切除術症例における周術期の長期的な安全対策が可能となると考えています。
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は患者背景（年齢、身長、体重、性別）、手術因子（手術アプローチ、手術時間、出血量）、術後合併症、血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血小板数、総タンパク、アルブミン、AST、ALT、総ビリルビン）、消化管出血の有無、脾臓摘出の有無、画像所見（血管開存性、胃壁外血管径、胃壁内血管径）、生存転帰です。 個人を特定可能な情報は削除し、匿名化した上で上述のデータを滋賀医科大学へ提供します。
共同研究機関	日本脾切研究会参加施設 178 施設 研究代表機関：滋賀医科大学（研究責任者 谷 眞至）
試料・情報の管理責任者	滋賀医科大学 教授 谷 眞至
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel：082-257-5216 広島大学病院消化器外科 准教授 上村 健一郎